

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：ゆうゆうきっず新子安	種別：認可保育所	
代表者氏名：中野 治	定員（利用人数）：140名（140名）	
所在地：〒221-0013 横浜市神奈川区新子安1-10-16		
TEL：045-431-0555	ホームページ： //keiju-w.or.jp/shinkoyasu/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2017年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 恵寿福祉会		
職員数	常勤職員：38名 非常勤職員：0名	
専門職員	専門職の名称	
	保育士	27名
	看護師（内准看護師）	0名（0名）
	栄養士（内管理栄養士）	1名（0名）
	調理員（内調理師）	7名（2名）
	事務員	1名
施設・設備の概要	(居室数)	(設備等)
	乳児室 2室	建物
	幼児室 3室	鉄骨2階建て
	沐浴室 1室	延床面積 971.8㎡
	調理室 1室	園庭
	トイレ 10室	面積 395㎡
	事務室 1室	
	職員休憩室 2室	
	子育て支援室（ホール）1室	
	医務室 1室	

③ 理念・基本方針

<p>【保育理念】 子どものしあわせと お父さん・お母さんの子育てを支援します</p> <p>【保育方針】 日常生活や遊びを通して、ひとりひとりの子どもとしっかり向き合い、豊かな人間性を育成するため『4つの学び』（知育・徳育・体育・食育）を実践し、教育と保育を行います。</p>
---

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>【立地および施設の概要】 「ゆうゆうきっず新子安」は、JR新子安駅および京急新子安駅より徒歩約3分の場所にあります。かつての大規模工場の跡地にマンション群が建てられ、大型商業施設</p>
--

が整備されるなど再開発が進んだ地域で、未就学児がいる世帯が多く住み、人口も増加しています。園周辺には、教育施設や散歩に適した公園があります。

園舎は鉄筋構造の2階建てで、971.8㎡の広さがあり、2階にはアスレチックのあるホール、1階には50名を収容できるランチルームを備え、職員用のバスルーム等の設備も充実しています。園舎屋外からは眼下を走る電車が見え、鍵盤を模した「ドレミファデッキ」や海賊船風の固定遊具のある海をイメージした園庭、水遊びのできる屋上、9台分の保護者用駐車場があります。園舎の大きな窓から陽光が差し込んで明るく、清潔感、開放感があり、白を基調とした中に虹色の階段やカラフルな風船型の照明があるなど、楽しい環境となっています。

#### 【園の特徴】

運営法人は青森県に本部を置き、設立後36年となる社会福祉法人恵寿福祉会で、介護、保育、障がい児支援のサービスを提供しており、当園は2017年に3園目の認可保育所として開園しました。区内に姉妹園があります。

交通の便の良さや、広さ、設備に恵まれた園舎を生かし、朝7時から夜8時30分まで開園し、0歳児から5歳児まで140名（定員同）の園児を受け入れています。

外部講師による体操教室、英会話教室を取り入れ、専門業者と提携して実施している任意参加の水泳教室では送迎も行なっています。オムツの月額制による手ぶら保育など、保護者のニーズを踏まえた保育を提供しています。地域の子育て支援事業として一時保育を実施しています。

#### ⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年6月12日（契約日） ～ 2025年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

#### ⑥ 総評

##### ◇特長

##### 1. 子ども主体の保育実現に向けての取組

令和5年度から、従来の一斉保育を見直し、個別性、柔軟性を意識した、子どもの主体性を重んじる保育へと徐々に移行しています。子どもの手の届く玩具棚、絵本棚を使用し、子どもが自由に好きな玩具や絵本を取り出して遊んだり、片付けも自分でできるようにしています。子どもの興味・関心のある玩具や図鑑等を置き、その時々の子どもの興味が広がるように工夫しています。給食では、お腹が空いている子どもは先に、もっと遊びたい子どもは後で食べるようにして、子どもの気持ちを受け止め、子どもに合わせた援助をしています。子どもに注意を促す掲示は子どもたちにもポスターを作ってもらい、読んでほしい本や遊びの進め方についての希望を聞いたりと、自由に好きな遊びができる時間やコーナーを設けるなどして、自発性・主体性が発揮できるように援助しています。本年度は、食育、手作り玩具、あそび、の3つのテーマの自主委員会を設定し、子どもの主体性を育む保育活動について検討し、様々な取組をしています。

##### 2. 事故や災害等のリスクマネジメント対策と職員への研修の徹底

リスクマネジメントに関する責任者を園長として、全職員が参加する安全管理委員会を設置し、年間活動計画に沿って、各種マニュアルの確認・見直し等を行なうとともに、子どもの命に係わるような重大な事案については園内研修を行なっています。

ヒヤリハットや事故事例はクラス会議で事故発生時の状況や原因を分析し、再発防止について話し合いを行ない、事故報告書に記録しています。事故報告は、安全管理委員会で全職員に周知し、再発防止策を徹底しています。

災害時の対応体制についての「業務継続計画」があり、全職員に配布しています。職員は自宅から徒歩でどれくらいの時間で園まで参集できるか把握しています。

「保育安全計画」を基に園内でアレルギー対応やAED、心肺蘇生法等のリスクマネジメント研修を行なっています。また、職員はアレルギー児対応研修や救急救命研修等の外部研修を受講して、安全確保に努めています。

### 3. 食に関する豊かな経験ができる保育の実践

食育は、園の4つの保育目標の一つであり、全体的な計画や食育計画に沿って、食に関する豊かな経験ができる保育が実践されています。幼児はランチルームで、厨房前のカウンターを移動しながら、バイキングスタイルで自分の食べたい量を盛り付け、レストランのような雰囲気の中で職員や友だちとの会話を楽しみながら食事をしています。献立には、「食育委員会」が行なった人気投票によるメニューや、全国の郷土食や季節にちなんだ行事食を、毎月取り入れています。自分で給食を盛り付けるときに、トングやお玉を上手に使えるよう、遊びの中でも調理器具に触れられるようにしています。

#### ◇今後期待される点

##### 1. 保護者の意見や要望を反映させる仕組みの整備

職員は、日々の保育の中で子どもの表情や言動等から子どもの満足度を把握し、送迎時や行事の際の保護者との会話から、要望を聞き取るように努めています。しかし、直接のコミュニケーションを重視する考えから、意見箱の設置や利用者満足度を確認するアンケートは行なっていません。個別面談を年2回行ない、保育参観後に活動の狙いや園の取組を伝える時間は設けていますが、クラス懇談会はありません。保護者に対して、意見箱の常時設置や保護者アンケート、クラス懇談会等、保護者の意見や満足度を積極的に把握し、保護者が意見や要望を気軽に表明できる仕組みについて検討することが期待されます。

##### 2. 1、2歳児の家庭との緊密な連携のための連絡帳等の活用の検討

園では、日々の送迎時に子どもの状態や家庭での生活を保護者から聞き取り、園での活動や子どもの様子について伝えています。職員は、その日のその子どものエピソードを必ず伝えるように心がけていますが、連絡帳は0歳児のみ使用しており、1歳児以上の子どもには連絡帳がありません。1、2歳児については、まだ自分では言葉で園での様子を伝えることができず、食事や排せつ、睡眠、衣類の着脱等、基本的な生活習慣の習得にあたっては、家庭との連携が欠かせません。保護者とのきめ細やかな情報交換が必要と考えられますので、0歳児と同様に、コミュニケーションツールとして連絡帳等の活用が望まれます。

##### 3. 地域への子育て支援を充実させる取組

園のある地域は都心や横浜への通勤に便利なため、他から移り住み、子育てを手伝ってくれる親族等が近くにいない世帯が多く、園では子育て支援を必要とする地域と捉え、育児相談、一時保育等を実施しています。一時保育は登録希望者が多く、要望に答え切れない状況のため現在受付を停止しています。地域の子育て家庭に向けて、保育所の専門性を生かした子育てや保育に関する園独自の講習会を企画するなど、地域への子育て支援の充実が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

(受審にあたって)

今回第2回目の第三者評価を受審しました。前のご指摘を受けた点や改善に向けた取り組みを点検するとともに、その進捗や方向性を改めて検証し、さらなる改善につなげるための課題を確認させていただく機会と捉えての受審となりました。

(受審のプロセスで得られた学び)

第三者評価受審のプロセス全体にわたり自園の運営や保育活動などを全面的に点検する機会をいただきました。特に職員全員が自己評価を実施したことによるきめ細かな振り返りができたこと、保護者の方からの率直なご意見・ご批評をいただけたこと、訪問調査で客観的な視点で細部にわたり園運営と保育活動をご確認いただけたことは今後の園運営にとって深い学びになりました。

(評価を受けて)

受審結果を受け、本園に求められているいくつかの取り組むべき課題が見つかりました。

「保護者との交流・連携」や「地域に開かれた子育てサービスの提供」などの項目において前回に続き相対的に低い評価となりました。この間、新型コロナによる影響を被るなどの事情はありましたが、明確な改善には至っていなかったことがあらためて明らかになっています。今後は保護者の皆さまや地域の方がたのニーズのさらなる把握に努め、その期待に応えられるよう、そして皆さまに信頼される保育園として質の高い保育の提供ができるよう努力を重ねてまいります。

今回の受審によって得た多くの気づきを今後の保育園の運営、保育活動の充実に繋げ、地域における社会資源としての保育園の役割を果たす所存です。

今回の受審にあたりまして、お忙しい中アンケート調査にご協力くださいました保護者の皆さま、評価をご担当いただき懇切丁寧にご説明くださいました評価調査員の皆さまに心よりお礼申し上げます。

ゆうゆうきっず新子安 統括園長 藤本 順子  
園長 中野 治